

会議録【全文筆記】

会議名称	令和7年度第1回米沢市行政経営市民会議																																									
開催日時	令和7年8月7日（木）午後3時00分～午後4時30分																																									
開催場所	置賜総合文化センター203 研修室																																									
出席者	<table><tr><td></td><td>(委員氏名)</td><td>(所属団体等)</td></tr><tr><td>委員長</td><td>神原 祐哉</td><td>神原法律事務所</td></tr><tr><td>委 員</td><td>青山 浩子</td><td>プラットヨネザワ株式会社</td></tr><tr><td>委 員</td><td>伊藤 優子</td><td>株式会社ニューメディア</td></tr><tr><td>委 員</td><td>岩崎 令子</td><td>米沢観光コンベンション協会</td></tr><tr><td>委 員</td><td>大竹 茂</td><td>山形おきたま農業協同組合</td></tr><tr><td>委 員</td><td>菊地 智</td><td>山形銀行</td></tr><tr><td>委 員</td><td>岸 弘行</td><td>米沢公共職業安定所</td></tr><tr><td>委 員</td><td>杉本 俊之</td><td>山形大学</td></tr><tr><td>委 員</td><td>鈴木 修</td><td>米沢信用金庫</td></tr><tr><td>委 員</td><td>高橋 郁子</td><td>学校法人松原学園 ひばりが丘幼稚園</td></tr><tr><td>委 員</td><td>田中 明子</td><td>米沢商工会議所</td></tr><tr><td>委 員</td><td>新田真有美</td><td>公募委員</td></tr></table>				(委員氏名)	(所属団体等)	委員長	神原 祐哉	神原法律事務所	委 員	青山 浩子	プラットヨネザワ株式会社	委 員	伊藤 優子	株式会社ニューメディア	委 員	岩崎 令子	米沢観光コンベンション協会	委 員	大竹 茂	山形おきたま農業協同組合	委 員	菊地 智	山形銀行	委 員	岸 弘行	米沢公共職業安定所	委 員	杉本 俊之	山形大学	委 員	鈴木 修	米沢信用金庫	委 員	高橋 郁子	学校法人松原学園 ひばりが丘幼稚園	委 員	田中 明子	米沢商工会議所	委 員	新田真有美	公募委員
	(委員氏名)	(所属団体等)																																								
委員長	神原 祐哉	神原法律事務所																																								
委 員	青山 浩子	プラットヨネザワ株式会社																																								
委 員	伊藤 優子	株式会社ニューメディア																																								
委 員	岩崎 令子	米沢観光コンベンション協会																																								
委 員	大竹 茂	山形おきたま農業協同組合																																								
委 員	菊地 智	山形銀行																																								
委 員	岸 弘行	米沢公共職業安定所																																								
委 員	杉本 俊之	山形大学																																								
委 員	鈴木 修	米沢信用金庫																																								
委 員	高橋 郁子	学校法人松原学園 ひばりが丘幼稚園																																								
委 員	田中 明子	米沢商工会議所																																								
委 員	新田真有美	公募委員																																								
欠席者	<table><tr><td></td><td>(委員氏名)</td><td>(所属団体等)</td></tr><tr><td>委 員</td><td>渋谷 文男</td><td>連合山形置賜地域協議会</td></tr><tr><td>副委員長</td><td>中川 恵</td><td>米沢女子短期大学</td></tr></table>				(委員氏名)	(所属団体等)	委 員	渋谷 文男	連合山形置賜地域協議会	副委員長	中川 恵	米沢女子短期大学																														
	(委員氏名)	(所属団体等)																																								
委 員	渋谷 文男	連合山形置賜地域協議会																																								
副委員長	中川 恵	米沢女子短期大学																																								
事務局出席者	副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、会計管理者、上下水道部長、市立病院事務局長、教育管理部長、教育指導部長、選挙管理委員会事務局長、監査委員事務局長、農業委員会事務局長補佐、総務課長、財政課長、財政課管財主幹、政策企画課長、教育総務課長、商工課長補佐、観光課長補佐、土木課雪対策主査、政策企画課長補佐、政策企画課上席専門員、政策企画課企画調整主査、政策企画課企画調整主任、政策企画課企画調整主事																																									
会議次第	<table><tr><td>1</td><td>開 会</td></tr><tr><td>2</td><td>副市長あいさつ</td></tr><tr><td>3</td><td>委員長あいさつ</td></tr><tr><td>4</td><td>議 事</td></tr><tr><td></td><td>(1)米沢市デジタル田園都市構想総合戦略の評価について</td></tr><tr><td></td><td>(2)デジタル田園都市国家構想交付金の実績について</td></tr><tr><td></td><td>(3)米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて</td></tr><tr><td></td><td>(4)米沢市公共施設等総合管理計画に係る事業実施状況について</td></tr><tr><td>5</td><td>その他</td></tr><tr><td>6</td><td>閉 会</td></tr></table>			1	開 会	2	副市長あいさつ	3	委員長あいさつ	4	議 事		(1)米沢市デジタル田園都市構想総合戦略の評価について		(2)デジタル田園都市国家構想交付金の実績について		(3)米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて		(4)米沢市公共施設等総合管理計画に係る事業実施状況について	5	その他	6	閉 会																			
1	開 会																																									
2	副市長あいさつ																																									
3	委員長あいさつ																																									
4	議 事																																									
	(1)米沢市デジタル田園都市構想総合戦略の評価について																																									
	(2)デジタル田園都市国家構想交付金の実績について																																									
	(3)米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて																																									
	(4)米沢市公共施設等総合管理計画に係る事業実施状況について																																									
5	その他																																									
6	閉 会																																									
会議資料	<table><tr><td>次第</td><td></td></tr><tr><td>委員名簿</td><td></td></tr><tr><td>資料1</td><td>デジタル田園都市構想総合戦略評価シート</td></tr><tr><td>資料2</td><td>地方創生関連交付金効果検証シート</td></tr><tr><td>資料3</td><td>米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて</td></tr><tr><td>資料4</td><td>米沢市公共施設等総合管理計画に係る事業実施状況について</td></tr><tr><td>参考資料</td><td>米沢市まちづくり総合計画（案）パブリックコメント募集</td></tr></table>			次第		委員名簿		資料1	デジタル田園都市構想総合戦略評価シート	資料2	地方創生関連交付金効果検証シート	資料3	米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて	資料4	米沢市公共施設等総合管理計画に係る事業実施状況について	参考資料	米沢市まちづくり総合計画（案）パブリックコメント募集																									
次第																																										
委員名簿																																										
資料1	デジタル田園都市構想総合戦略評価シート																																									
資料2	地方創生関連交付金効果検証シート																																									
資料3	米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて																																									
資料4	米沢市公共施設等総合管理計画に係る事業実施状況について																																									
参考資料	米沢市まちづくり総合計画（案）パブリックコメント募集																																									

会議内容

【1 開会】

省略

【2 副市長あいさつ】

本日はお忙しい中、令和7年度第1回米沢市行政経営市民会議に御出席いただきありがとうございます。連日、暑い日が続いており、全国的には過去最高気温を毎日更新している状況が続いています。体調管理が難しい状況になっていますので、皆様には御自愛いただきたいと思います。また、米の価格が高止まりしている状況で、今後の情勢を注視しているところでございます。本日は米沢市デジタル田園都市構想総合戦略の評価と公共施設等総合管理計画についてお話をさせていただきます。皆様から忌憚のない御意見をいただき、今後の行政経営に活かしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【3 委員長あいさつ】

久しぶりの開催となり、改めて委員長としての役割を思い出しているところです。本日は皆様に積極的に御発言いただきたいと思います。市の担当者の方々にお集まりいただいておりますので、この機会を活用して皆様から貴重な御意見を伺えれば幸いです。よろしくお願いいたします。

【4 議事】

(1) 米沢市デジタル田園都市構想総合戦略の評価について (資料1について事務局から説明)

委員 本日の意見は令和7年度の活動に向けた内容ということでよろしいでしょうか。

事務局 特に縛りはございませんので、令和6年度の結果についても併せて御意見をいただければ幸いです。

委員 最近、市内の医師不足について非常に耳にする機会が増えています。そこで、医学部に行った学生の学費を市が助成し支援することで、医師の確保につながるのではないかと考え、以前、総合計画の方にメールで意見を送らせていただきました。この件について、こちらにも関連するのではないかと思います、改めて意見を述べさせていただきたいと思います。

事務局 現在、市立病院における医師確保に関して、医師をはじめ市立病院に入職される方々に対して費用を負担する制度がございます。これらの制度について、今後も引き続き周知を図っていきたいと考えております。

委員 そういった制度があるということを学生にも伝えるようにPRしていただければと思います。

委員 資料2ページの「1-4 安定した雇用と働きやすい環境づくり」にある「学生と地元企業のマッチングを目的としたセミナー・ガイダンス・イベント参加人数」についてですが、令和6年度が基準値より下がっていますが、令和9年度の目標値として延べ8,000人を掲げている状況です。現在、企業説明会の開催形式がリモートへと移行する傾向が強まっており、山大でも毎年3月に実施されていた説明会が令和6年度からリモート形式に変更されたと伺っています。リモート形式での参加者数をどうやって把握するか疑問を感じており、それらを把握できないことで

参加人数が減少している可能性も考えられ、令和9年度に目標値である8,000人を達成することは難しいのではないかと懸念しています。そのため、目標値は現状を考慮し、再検討していただく必要があるのではないかと思います。

事務局

リモート開催に移行した影響もありますが、少子化の影響で高校生の就職希望者数が減少していることが要因となっているとも考えられます。リモート開催に関しては、カウントされていない部分もありますので、関係者と対応を考えながら、また、山大とも連携を図り目標達成に向けて調整を進めていきたいと考えております。

委員

「地域の活力があり安定して働き続けることができるしごとの創出」についてですが、市内の中小企業はどれも人手不足という問題を抱えています。このような状況でニーズに沿った支援を行うということですが、学生やUターン者が簡単に地元に戻ってきてくれるわけではない現状を考えると、中小企業が抱える人手不足の問題を解消するための具体策があれば教えていただきたいと思います。

事務局

中小企業を中心にニーズを把握し、対応を検討しております。現在、人手不足が顕著であり、加えて賃上げや物価高、資材高騰の影響により、利益を上げることが難しい状況が続いているとの声を伺っています。今年度においては、特に中小零細企業の設備投資が思うように進まない中、デジタル化、設備投資への支援を内部で検討しているところです。高付加価値化を図るには、労働支援だけでなく、省力化できる仕組みを構築することが重要だと考えています。補助するだけでなく、商工会議所に伴走支援をしていただき進めておりますので、具体化した際には改めて御報告させていただきます。

委員

KGIの数値設定の根拠についてお伺いしたいです。例えば、社会増減が0になり、合計特殊出生率が1.5に到達し、将来も住み続けたいと思う市民の割合が50%に達した場合、最初に掲げられている市町村内総生産4,500億円という目標値にどのように結び付くかが気になります。これらの指標は相互に関連していると思いますが、目標値を設定する際、縦割りではなく、横割りを意識して設定されているのでしょうか。具体的にどのように決めているか教えていただけるとありがたいです。

事務局

設定根拠については横のつながりを意識するというより、それぞれの施策で目標を掲げる形で進めてまいりました。現状では縦割りの数値目標が設定されている状況です。今後こうした指標を検討する際は委員からいただいた意見を参考にしながら、検討を進めていきたいと考えております。

委員

人口減少が進む中、少子化に伴い高校生の卒業予定者も減少し、それに伴って就職希望者も減少している状況があります。もちろん、地元での就職を促進するために様々な取組が行われていますし、こうした地道な努力や活動が重要であることは認識しています。しかしながら、今後こうした地道な活動を続けるだけで、人口の転出を防ぐことができるのかという疑問を抱いています。一方で、大胆な施策を打ち出すのは難しいのではないかと感じています。ただ、このままでは現状の流れを変えることは難しいのではないかと思います。そのため、少しでも人口流出を食い止めるため、1人でも2人でも地元に留まってもらえるような施策が必要だと感じています。そこで、もし大胆な施策や新たな取組について検討されているものがあればお聞かせいただきたいと思います。

事務局

最後に説明しようかと思っていたのですが、来年度から 10 年間の新総合計画を策定しております。この総合計画はデジタル田園都市構想総合戦略の上位に位置付けられる、市における最上位の計画となります。この計画では2つの目標を掲げています。1つ目は人口を7万人程度とすること、2つ目は市民の幸福度を向上させることです。人口については、これまでも産業経済や結婚支援など、多面的な施策を組み合わせで取り組んできました。一方、幸福度の向上については、これまでにない新しい概念となります。国のデジタル庁が作成した指標を参考にし、主観的な要素と客観的な要素を組み合わせで評価し、実現を目指すものです。大胆な施策というところでは、これが答えになるかどうか分かりませんが、これまでの計画では数字を追い求める傾向が強かったのですが、今後は市民の皆様が米沢に住むことで幸せを感じられるような事業を展開していきたいと考えています。具体的な内容は現在パブリックコメントを実施しておりますので、最後に事務局から詳細を説明させていただきます。

委員

3 ページの社会増減について、転入者、転出者の実数がここに記載されているのですが、この理由を把握できているのでしょうか。

事務局

転入・転出者の理由については、現時点で詳細を十分に把握できていない状況です。例えば、転入者に対してアンケートを実施し、その結果をまとめたこともあります。100%取れるわけではなかったり、詳細な部分が把握できていない状況です。その点はこちらとしても課題として認識しております。

委員

その辺りの情報が明確でないと、我々としても評価の仕方が難しいです。実数だけを見ていると、マイナスになることは大体予想がつきます。ただ、こういった条件でというところを分かるようにすることがデジタルの力ではないかと考えています。要因をしっかりと把握し、方策を立てることが非常に重要だと思います。そうすることで、次につながる施策を効果的に打てるのではないのでしょうか。難しい課題ではありますが必要だと感じています。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金の実績について

(資料 2 について事務局から説明)

委員

はじめに、天元台と白布温泉街のエリア一帯を回遊する入込客数は増加しているものの、旅館施設の閉館や長期休館の影響で白布温泉街の入湯税が激減している状況です。初年度の水準を下回っている現状について、これが底なのか見解をお聞かせください。次に、米沢市版 DMO において、観光客の PV 数は激増していますが、毎年設定されている観光消費額の年間 8 億円の増加目標に届いていない状況です。この観光消費額の伸びが少ない理由を教えてください。最後に、除雪作業において人材不足が深刻化している中、費用面でも頭の痛いところであると思うのですが、毎年、歩道を歩いている人が見えないくらい雪が積み上がり車の動きも予測しづらい状況が発生しています。この問題について、今後どのような解決策が考えられるか御意見をお聞かせください。

事務局

リボーンプロジェクトの KPI の数値は、白布温泉街と天元台高原の共通利用券というのをプロジェクトで出しており、その利用者数になります。長期休館している温泉施設やコロナ禍の影響により、現状の傾向が

しばらく続く可能性があると予想されます。ただ、白布温泉自体の入込客数を5年度と6年度で比較すると、若干の増加が見られるため、今後の改善に期待しているところです。次に、観光消費額のKPIですが、こちらは伸びが少ない状況となっております。観光消費額の計算方法としては、米沢市の観光入込客数を県内客・県外客、さらに宿泊客・日帰り客に分け、それぞれの人数に県の観光統計から算出された1人当たりの観光消費額を掛けて算出しています。観光入込客数は令和5年度と令和6年度で大きな差はなく、6年度は若干微減となっております。一方で、県の観光統計の単価が令和4年度に比べて令和5年度で下がっている影響もあり、観光消費額の伸びが見られない状況です。

事務局

本市では主要な交差点において、市で排雪を実施しております。昨年度は大雪が4回ほど発生し、その影響で業者に依頼するタイミングがうまく回れず、市民の皆様に御迷惑や御不便をお掛けしたことをお詫び申し上げます。今後につきましては、パトロールの強化や市民の皆様の要望をお聞きしながら、適宜早めの対応を心掛けてまいりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

委員

現在、除雪オペレーターの担い手が不足しており、高齢者、さらには後期高齢者を過ぎても、除雪車に乗れる限り作業を続けなければならない状況です。以前は除雪作業に対して感謝されることが多かった時代がありましたが、今では除雪車が来ると睨まれるような時代になっているという話を耳にします。その原因として、除雪オペレーターの収入や作業環境が挙げられると思います。もちろん、高規格道路と市道では除雪の基準が異なり、市道の除雪作業は特にやりにくさがあると思います。その中、満足度の目標が48%というのは指標として適切なのか判断が難しいところです。やはり、もう少し踏み込んで考える必要があると思います。GPSの機械を導入した事業について報告をいただいておりますが、除雪そのものに対して、お金をかけている割にはどうなのかという状況です。課題解決は難しい問題だと思いますが、土木課を中心に各課が総力を挙げて対策を進めていただいていることには感謝していますが、横断的に雪対策を進めていただきたいと思います。次に、デジタル田園都市構想の全体的なことについてですが、米沢市だけで完結するのではなく、他市町と連携して広域的に取り組むことができる分野があるのではないのでしょうか。特に置賜地域全体で連携して進めることで、効果的な取組が可能になると思います。そうした広域的な視点での取組を検討していただければと思います。

委員長
委員

除雪の件は満足度を上げてほしいということでしょうか。

指標は難しい課題ですが、除雪を依頼する側も作業を行う側も、ある程度の満足度が得られる状況でなければ、業者や携わる方々にとって厳しい状況が続くと思います。この実態をもっと深く考えていただきたいと思います。

事務局

まず、除雪車運行管理システムに関するKPIですが、残念ながら実績値を達成することができませんでした。しかしながら、運行管理システムを導入したことで、従来の除雪作業の精算方法が大きく変化しました。具体的には、距離制だったものが時間制に変更されました。従来の距離精算では雪の降り方に関わらず業者への支払い金額が一定でした。しかし、今年度から導入した除雪車運行管理システムにより、時間精算に切り替えたことで、雪の量に応じた柔軟な対応が可能となりました。

例えば、雪が少ない場合は除雪作業が早く終了し、雪が多い場合は時間をかけて除雪を行うことで道路をきれいにすることができます。また、市民からの問い合わせ件数も効果が見られます。今年度の問い合わせ件数は約 1,200 件でしたが、例年、累積降雪量が多い場合には問い合わせ件数が増加する傾向があります。例えば、令和 3 年度には約 2,100 件の問い合わせがありましたので、除雪車運行管理システムの導入により、市民からの問い合わせ件数が減少していることが確認できます。もちろん、毎年の雪の降り方による影響もあるため一概には言えませんが、こういった状況を見ますと効果はありましたし、市民満足度も向上しているものと捉えています。次に、オペレーターに関する課題ですが、高齢化が深刻な問題となっています。米沢市ではオペレーターの育成事業として、資格取得にかかる費用の半額を補助する制度を設け、オペレーターの育成を進めています。この取組の成果として、近年オペレーターの数が増加している状況です。今後もこうした地道な事業を継続し、オペレーターの確保に努めてまいります。

事務局

広域連携に関する部分ですが、令和 6 年度の実績報告においては、広域連携の事業については記載しておりません。しかし、先ほどご覧いただいた資料 1 の 9 ページ目には具体的な取組の一例として「広域と連携した共生のまちづくり」という項目が記載されています。特に観光などに関して、置賜定住自立圏の事業を通じた広域連携の取組が進められています。このような広域連携の取組を今後も継続していきたいと考えております。

委員

西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリアリボーンプロジェクトについて、はじめに、来場者数や入湯税などが減少していて、今後の展開について「ターゲットを明確にした PR 活動」とあります。具体的に、どのターゲット層を想定しているか気になりました。次に、今年は大雪でしたが、気象リスクや災害時の対応について、今後どのように対応していく予定なのか気になりました。

事務局

ターゲット層は本事業では新しい顧客層の獲得に成功した部分がありました。引き続き有名スノーボーダーを起用した事業などを実施してまいります。また、6 月に台湾の旅行業者が 30 社ほど訪れ、天元台の方に登っていただきました。そこで大変興味を持っていただきまして、インバウンドについても天元台・白布温泉エリアで注力していきたいと考えております。さらに、現在の天元台高原のあり方検討業務というものを専門家に依頼しており、その中で悪天候によるロープウェイの運休が課題になっていると指摘をいただいております。そうした中、天元台高原のマネタイズの部分で様々提案をいただいておりますので、サービス向上を中心に収益の確保に努めてまいりたいと考えております。

委員

まず、DMO の KPI で地域アプリの利用数の実績が 0 になっている点で、ずっと手つかずの状態なのだろうと思うのですが、今後どのような目的で利用することを想定しているかをお聞きしたいと思います。次に、観光情報サイトの PV 数についてですが、この中に SNS は含まれていますか。含まれていないとすれば、観光において SNS は必須だと思うのですが、含まれていない理由を聞かせていただきたいと思います。

事務局

地域アプリのユーザー数ですが、既に「たまぷり」というアプリを開発して実装しております。当初、交付金申請時にはこのアプリのユーザー数を増やすことを目標として掲げておりました。しかし、コロナ禍の

進展に伴い、オンライン化やデジタル化が急速に進んだ結果、旅行者は地域アプリよりも Google マップや SNS をスマートフォンで見て訪れるケースが増加しました。この状況を踏まえ、地域アプリの運用は効果が薄いと判断し、運用を休止しております。そのため、地域アプリの実績ユーザー数は運用休止の影響により 0 となっております。次に、観光情報サイトの PV 数ですが、米沢観光ナビに登録している方々の PV 数が対象となります。また、米沢市版観光 DMO の実行部隊であるプラットヨネザワが運用している SNS のデータも集計に含まれております。

委員
事務局
委員
事務局

「たまぷり」は令和 7 年度から再開する予定でしょうか。

現在「たまぷり」の再開予定はございません。

では、KPI は今後どういう形で進むのでしょうか。

国からは 0 となっていることについて、理解いただいていると聞いておりますが、有効な指標に置き換えることが可能か検討してまいりたいと考えております。

委員

除雪に関する意見ですが、除雪情報を必要としている方々の中でも特に高齢者のニーズが高いのではないかと思います。しかし、高齢者がアプリを使いこなすのは難しいところもあると思います。NCV ではライブカメラをやっている状態で、冬になって雪が降ると非常に視聴率が上がるのですが、スマホの小さな画面で見るとテレビで見た方が高齢者にとっては見やすいのではないかと思います。アプリとテレビのデータ放送を連携することを検討いただければありがたいです。また、建設業者の方の話もありましたが、その日に除雪を行うかどうかの基準があると思うのですが、現場の担当の方が深夜に現場に行かれて目視されて判断されているとお聞きしたことがあります。今は監視カメラ等で積雪深を測定して判断するというようなシステムがあると聞いておりますので、検討いただければと思います。

事務局

除雪状況の NCV の画面共有ですが、本市の除雪車運行管理システムは市内全域を網羅した画面となっております。NCV と画面共有ができるかどうかについては、委託業者と連携が可能かどうかを協議した上、検討を進めさせていただきたいと思います。また、今後の展開として、今年度は積雪深センサーの設置事業を実施しております。この事業では市内中心部ではなく郊外を主な対象としています。これにより、積雪量が可視化されるため、除雪業者も分かるようになります。効率的な出動体制を整えることで、現場に直接行かなくても地域毎の状況を統一的に把握できるようになります。この仕組みにより、除雪業者の負担軽減が期待されます。

委員

デジタル田園都市国家構想交付金とは国が市町村に提供する競争的な資金なのでしょうか。だとすると、提案したのは誰なのでしょうか。例えば、白布のリボーンプロジェクトの場合、白布温泉が主体となって声を上げ、米沢市と協力して申請を行ったのでしょうか。

事務局

それぞれで異なります。例えば、白布では地元の皆様と米沢市が話し合いを重ねてきてきているものもありますし、デジタル実装タイプでは、市が業務の効率化を求めて市が応募する形で進められています。

委員

交付金を積極的に活用することは良いことだと思います。これだけ多くの交付金に応募し、採択されているというのは素晴らしい成果だと感じます。ただし、やりたいことがたくさんある場合、市の財源も限られているでしょうし、事業の優先順位はあるのでしょうか。

事務局	市町村の枠があり、応募できるという採択の基準があります。市でも半分が持ち出しなっておりますので、そういったものは担当課と財政課との話し合いの中で、どこまでなら使えるか検討しながら申請を進める形となっております。
委員	その事業が一年間で市が半額を負担して実現し、翌年以降にさらに予算を増やせば事業がより活性化する可能性がある場合は、翌年以降の予算配分はどのように検討されていますか。
事務局	基本的には3年間や5年間の計画を立てることが多いのですが、その期間で自走させることが多いです。そのため、期間が終了した後にさらに延長するような対応は想定していません。
委員	あっても良いと思いました。また、地方創生推進タイプの横展開とは具体的にどのようなものなのでしょうか。
事務局	他自治体でも交付金を活用して様々な事業が行われていますが、基本的にここに書いてあるのは、他自治体が実施している事業と同様のスキームでの横展開というイメージです。市がこれを他地域に横展開をするということではなく、特にデジタル実装タイプは他自治体で実績があるようなものを参考に市としても取組を進めるという形です。
委員	白布の場合もそういうことなのでしょうか。
事務局	制度の枠組として横展開型を活用したものですが、他自治体の実績を参考に実施したものではありません。
(3) 米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて (資料3について事務局から説明) 特に意見等はなし	
(4) 米沢市公共施設等総合管理計画に係る事業実施状況について (資料4について事務局から説明) 特に意見等はなし	
【5 その他】 (参考資料について事務局から説明) 特に意見等はなし	
【6 閉会】 省略	